

# 石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場

平成28年12月8日

石狩湾系ニシンの今漁期（平成29年1～4月）における漁況は、次のようになる見通しです。

- 石狩湾沿岸域では、序盤は例年同様に6年魚以上の大型群の来遊がありますが、大型群の来遊量としては昨漁期（H28年）より少なくなる見通しです。
- 1月下旬から2月上旬にかけて5年魚（2012年級）主体の来遊となり盛漁期となる見通しです。
- 4年魚（2013年級）は多くないため来遊量は次第に低調になるとみられますが、漁期後半（3月）に来遊する3年魚（2014年級）の来遊量は比較的多くなる見通しです。
- 近年、漁獲の主対象となっている4年魚以上の資源重量は、今のところ昨漁期（H28年）の60～70%程度と推定されます。

後志以北日本海沿岸に来遊する産卵群の全体動向の予報であり、海域により来遊傾向は大きく異なります。

本年10月に留萌沖で実施した稚内水試試験調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、尾叉長29cmにモードのある5年魚（2012年級）が20%、26cmにモードのある3年魚（2014年級）が46%を占めました（下図）。海況不良により調査点数が少なくなったため、分布密度を前年と対比することが難しい状況となりましたが、比較的採集量の多かった2点の情報に基づいて、以下のとおり来遊状況を予測しました。

昨漁期までの漁獲実績に基づいた資源計算とトロールの採集状況から、各年齢資源尾数の昨漁期（H28年）に対する比率は、6年魚以上の大型群が約60%、5年魚が140～170%、4年魚が約35%で、近年、漁獲の主対象となっている4年魚以上の資源重量は昨漁期の60～70%程度と推定されました。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため、今期も地域間で好・不漁感の違いが大きいと予想されますが、石狩湾沿岸では、水温分布等に大きな異変がなければ序盤は6年魚以上（体重350g以上）主体の漁となり、1月下旬から2月上旬にかけて5年魚主体（体重300g前後）で盛漁期となる見通しです。4年魚の資源量が多くないことから、以降の来遊量は次第に減っていくとみられます。

一方、2月末から3月に来遊する3年魚（2014年級）はトロール調査での採集量が多く（下図）、くわえてここ数年の3年魚に比べ魚体が大きいため、今期は2.0寸以上でも漁獲される可能性が大きいと考えられます。

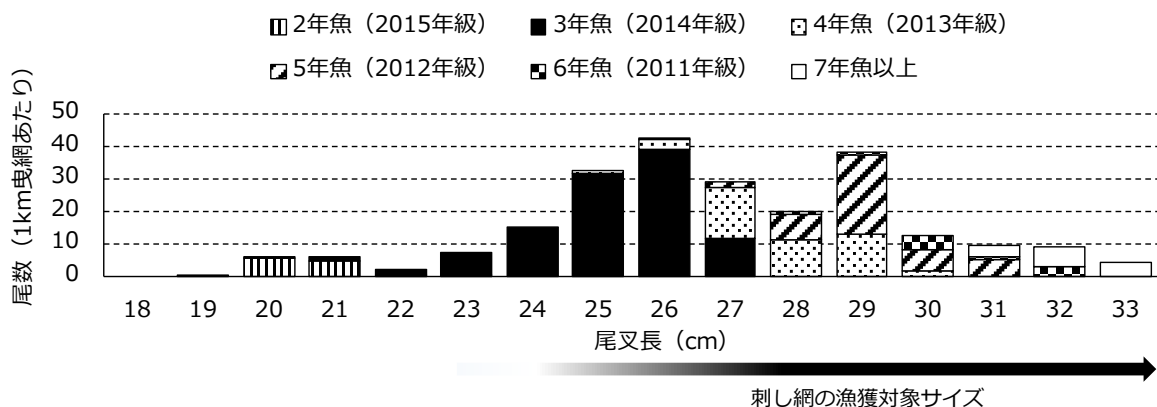


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）